



サキユバスを召喚したら
僕もサキユバスに!?!?

俺には好きなものが沢山ある。

中でもサキュバスはものすごくそえる。

毎日のようにサキュバスものをオカズにしている。

今日もサキュバスで一発！



本物のサキュバスに会えないかな？
実際にいたらどんだけ気持ちいいのかな…
ああ…サキュバスとやってみてえ〜



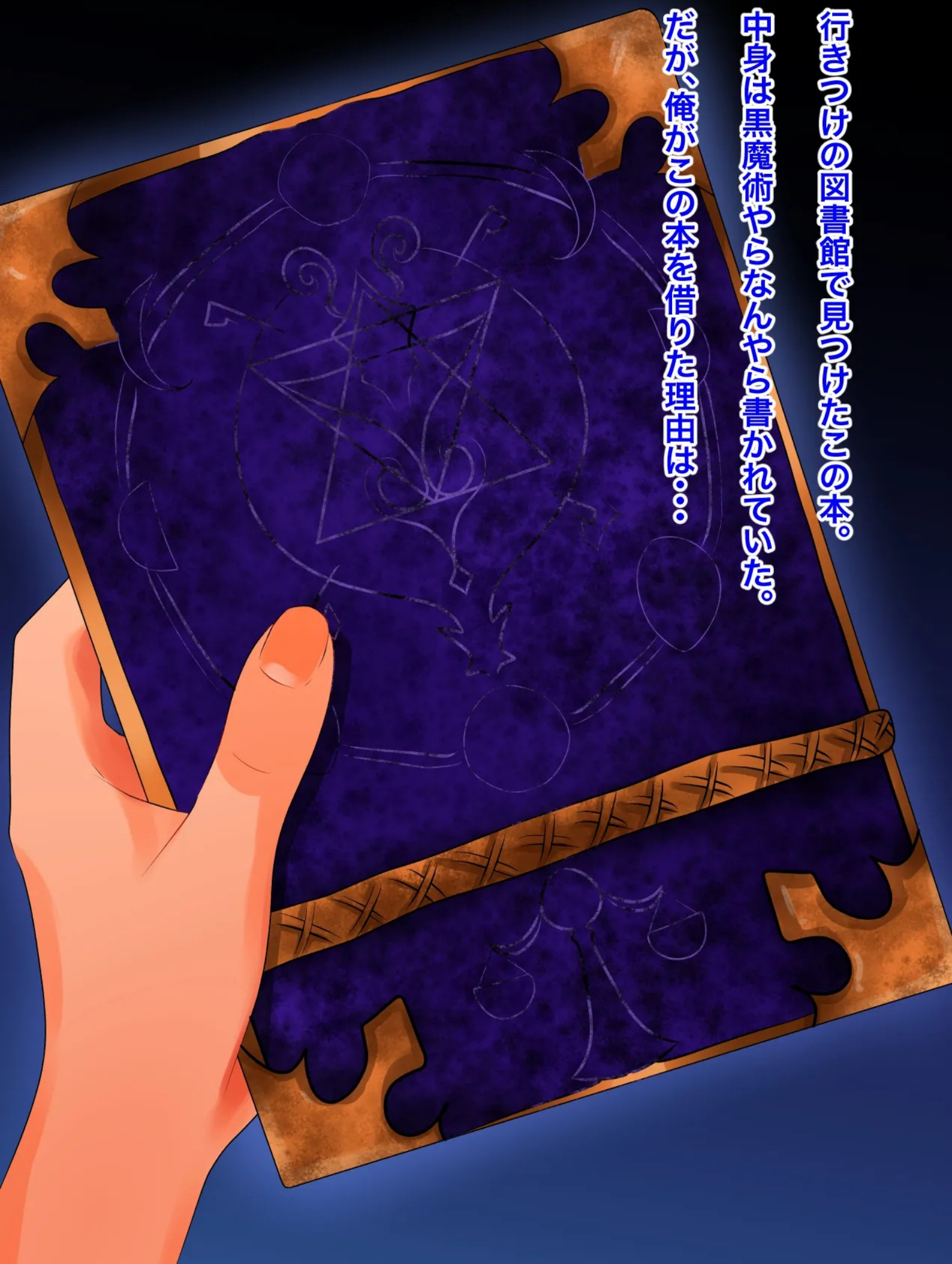


そんなことを考えていたがある日、転機は訪れた。

行きつけの図書館で見つけたこの本。

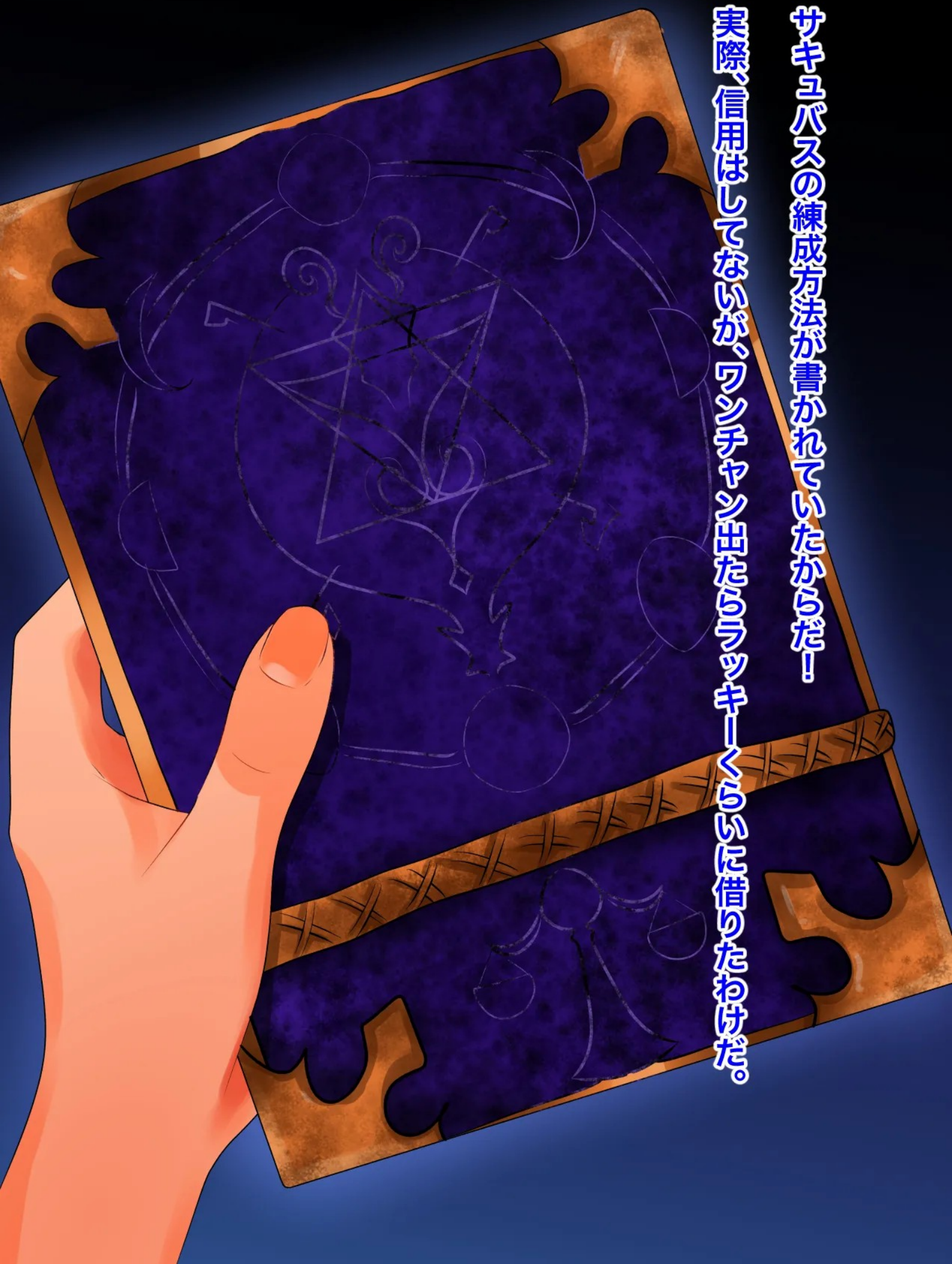
中身は黒魔術やらなんやら書かれていた。

だが、俺がこの本を借りた理由は…



サキュバスの練成方法が書かれていたからだ！

実際、信用はしてないが、ワンチャン出たらラッキーくらいに借りたわけだ。



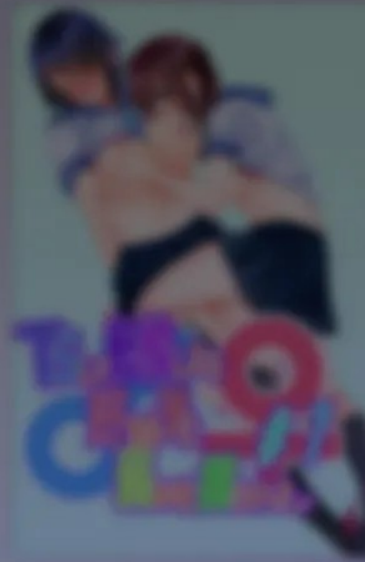
「なるほど、これをいっしょで…」

「とりあえず、本の通りにやってみたが…」

「これで本当に召喚できるかな…」

「本当に出たらどんなプレイを…くふふ…」





『oooooooo』

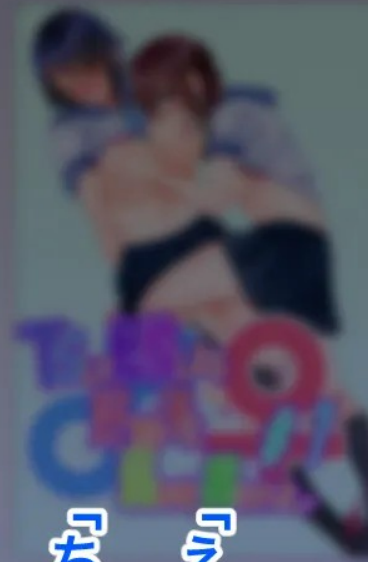




「うっ…出るわけ…」

「ふっ」





「...っゅむ」

「え!？」



「えー!？」
「ほ、本当に出てきた!？」



え？本物のサキュバス！？

嘘！嘘！嘘！？



「あなたが私を呼んだの？」

「えーあっ…はい…」

「あーびっくりしますよねー！いきなり私が出てきてー！」

「本当に出てきた…でも思ってた感じじゃないな…」

「もう少しクールなイメージだったな…」

「でも、めちゃくちゃエッチな格好だ…」



「あれれ？どうかしましたか？」

「あっ！そっかー！そういっただけでしたかー！」

「え？」

「エッチなことがしたくて呼んだんですよ？」

「ふふ♡照れなくても大丈夫ですよ♡」



まさか本当にサキュバスが出て…

そのまま…

「えっと…は、はい…」

「わかりました♡」

「それじゃあ…始めますか?♡」

「ぞ、そんなにいきなり…お、お願いします…」



「わかりました♡」

「沢山搾ってあげますね♡」

沢山…ああ…まさかこんなことが叶うなんて…

あつでも、サキユバスに絞られるって…



「あ、あの…搾られたら俺ってどうなります?」

「え? ああ…●にますね♡多分♡」

「え!」

「じゃあ、横になって下さいね♡」



「ちよっ…」

「え? 俺…●ぬの?」

「まずは脚で…♡」

うおおおおお！？

なんだ！この脚はああ！？

「どうですか？サキユバスの脚は？」

「う…気持ちはいいです…」

71

72

なんだ？身体に力が入らない…

「んふ♡だんだん大きくなってきましたね♡」

「ほら♡グリグリ♡」

はあああああああ……



ゲ

49

47

「スポンから顔出しましたね♡」

「みんなちは♡」

脚…すぐ気持ちいい…

サキュバスの脚って…こんなに…

「もっとグリグリ♡グワリ♡グワリ♡」



「裏筋を…んじやって…♡」

あつちばらーんわちばらー！

「感じてるんだね♡」

「ほおら♡ん♡ん♡ん♡ん♡ん♡ん♡」

「ーん♡ん♡」





「もうイっちゃったの?♡」

「はあはあ...すぐく気持ちよくて...」

「もうこんなに出しちゃって...♡勿体無い♡」

「綺麗に舐めとってあげる♡」



「お掃除するから立って……♡」

「それじゃあ……ああん♡」

「うっ！す、すげえ……」

すごい吸い付きで……舌使い……

めちゃくちゃ絡みとっついて……



「んふふ♡また大きくなってきたね♡」

「そうだよね…もっと出せるよね♡」

サキュバス最高かよ…

「はあ…はあ…」

「この裏筋も…こうなると気持ちいいでしょ♡♡」

「はああ!き、気持ちいい…すごい…」



「ああ♡タマタマ上がってきたね♡」

「また、出るのかな?♡」

我慢できない…イク…

い…イきます…」

「いいよ♡全部飲んであげる♡」



「うっー」

「んっ♡んっ♡」

ああ…すごく甘くて…

気持ちいい…

「ああ…はあ…」



「濃いね♡美味しいよ♡」

「はぁ…喜んでもらえて嬉しいです…」



ゴックン♡

「はぁ…♡飲んじやった♡」

俺の精子を…

「あれ？まだおち●ちん元気だね♡」

「もしかして、飲んだのみてまた興奮しちゃった？♡」

「は、はい…」

「素直な子は好きだよ♡」

「それじゃあ、体勢変えようか？♡」



「腰下ろして♡」

「じゃあ、おっぱいでシ「シ」してあげる♡」

おおサキュバスのおっぱいだ…

「お、お願いします」

「ふふ♡もう、ゴンゴン♡うらや♡」



「それじゃあ…挟みま〜す♡」

「うおおおっ」

「どぅっ♡気持ちいいでしょ♡♡」

「ほ、はい…気持ちいいです…はあ…」

これがパイズリ…さっきから気持ちよすぎて…



「おっぱいの中で大きくなってるのわかるよ♡」

「もっと出してもらわないといけないから頑張ってる♡」

「精●がどんどん作られていく感じがする…」

「一滴残らず搾らせてね♡」



「ほら♡シ♡シ♡♡」

「おち●ちん♡頑張れ♡」

「私のために沢山どぴゅっぴゅっしてね♡」

沢山、沢山出してえ〜

全部、この娘に吸い取ってほしい

「が、頑張りますっ」



「よし！私も頑張っちゃうぞ♡」

「シロシロ♡ほおら、シロシロ♡」

「どんどん膨らんできたね♡」

「3回目、ヨメ♡♡♡」

「ああ…ヤバイ…」

「…ヨメ♡♡」



「んっ♡ああ、出てる出てる♡」
「おどろ♡びゅーびゅーっ♡」



「ああ、垂れてる♡」

ああ、こんなに出したの初めてだ…

「沢山出せてえらいね♡」



「ふふ♡こんなに♡」

「もう私のおっぱいぐちゃぐちゃ♡」

「すげえ…」

「エッチな糸引いちやってるね♡」

「はあはあ…流石に疲れたな…」

「ちよつと休憩していいですか？」



「え？休憩？ダメだよ？」

「そんな！もう勃てないですよ？」

「勃てるよ♡頑張れ♡」



「ほりっっっすればっっ」

なんだこれ？

「いっいっいっ」

「おち○ちんが元気になる魔法♡」

ポーン



ち●こがみるみる勃●して…

「ほら♡こんなに元気になった♡」

「これで続けれるでしょ?♡」

「さっきいったばかりだからすぐく敏感になってるかもね♡」



「えい♡」

あぁっ！

「はは♡いい声♡」

「おち●ちゃんからもヨダレ垂らしちゃって♡」

「かわいい♡」



「息荒いね♡はあ…♡」

「私も君のおち●ちん、弄ってたら…はあ♡」

「私も気持ちよくなっているかな?♡」

「サキユバスさんも…ということとは…」



「次は私のおま○こでイかせてあげようか♡」

サキユバスさんとS○X！

「っ！」





「あーっ♡」

「もう、入れる前にまた出しちゃって♡」

「うれションってやつ?♡」

「ぶ、ごめんなさい…」





「はぁ♡そしたら、もう一発ここに出してもらおうかな♡」
「すぐドキドキしてきた…」

「私のま●こみたい?♡」

「みたいです…サキュバスのま●こ…」

「えっちな子♡」

「はい♡くぱあ…♡」

ま●こだ…これが…

「すごい顔だよ♡」

「これからこの中に、君のおち●ちんが入るんだよ♡」

「ふふ♡君のおち●ちんが入りたがってるね♡」

「こんなにビクンビクンさせて…♡」

「これからたっぷり楽しませてあげる♡」



「じゃあ、入れるね♡」

「は、はい…」

「はぁぁ♡入ってきたよ♡」

「あっ…くぁ…」

なんだこれ…これがサキュバスま●こ…



「どう？私のま●こは…♡」

「人間のま●こより気持ちいいでしょ？♡」

「中のヒダヒダがおち●ちんに絡みついて…ヌルヌルで…」

中…：すげえ気持ちいい…おかしくなりそうだ…

「君の顔いいね♡おち●ちんも喜んでるのがわかるよ♡」



「もっと動いてあげるから沢山出してね♡」

「やば…う…」

「はぁ♡はぁ♡気持ちいい？♡気持ちいいでしょ♡♡」

「我慢しないでどんどん出してね♡」

「こんな気持ちいいの初めてで、我慢なんて出来ない…」

「膨らんでる♡膨らんでるのがわかるよ♡」

「出るんだね♡また、びゅーびゅーって精●が出るんだね♡」



「あっ！くっ！」

「あああ♡出てる♡私の中でぶゅぶゅぶゅ♡」

「もっと♡もっと♡ちょうだい♡」

「●ぬまで私に♡出♡して♡はあ♡」



「ふふ♡イケたね♡」

「お腹に君の精●沢山入ったよ♡」

「はぁ…はぁ…」



「腰止めないから♡」

「●ぬまで止めないから、どんどん射精して♡」

「苦しそうだね♡でも、おち●ちゃんはこんなに元気で♡」

サキュバスま●こ…やばすぎるよ…



「また…イきそう!」

「私のま●こでまたイクの?♡いいよ♡何回でもイって♡」

「あなたの精●で私の中をいっぱいにして♡」

「君のおち●ちん…もっと味わいたい♡」



「んっああ♡出てる♡」

「君の精♡が出てるよ♡」

「●んじやう…●本当だ…」

「苦しい…苦しいよ…でも、身体が…」

「まだ♡まだ出して♡」



「もう…む…無理だよ…」

「大丈夫♡まだ出せるよ♡」

「おち●ちゃんは出せるって言ってるよ♡」

「ほら♡イけ♡イけ♡」

「ああああっ！」



あれ？俺どうなったんだ…？

●んだのか…？

何回、出したんだろう…？

「おい」

ん？なんか聞こえる…

「おーい？大丈夫かー？」

ん？あれ？

俺生きてる？

「もしもし」



「まさか、こんなことになるなんて♡」
「ほら、鏡で自分のことみてごらん♡」
「すごく可愛いから♡」
「か、可愛い?」



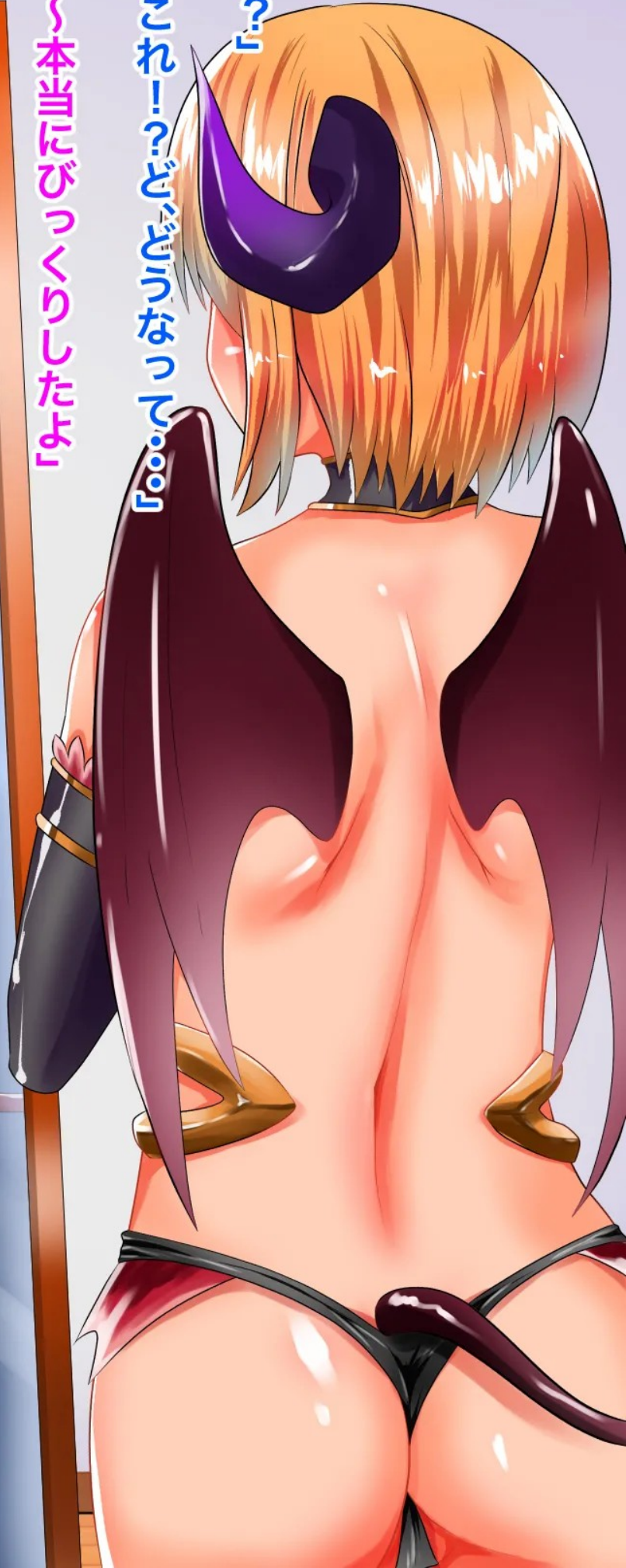
「えー!？」

「なにこれ!?!?どっとうなって…!？」

「いや、本当にびっくりしたよ」

「まさか、●んだと思ったら君もサキュバスになるんだもん♡」

俺がサキュバスに…!？」



「すげえ……」

女の子の身体だ……

「はぁ……♡」

気持ちいい……なんだろうこの感じ……



「ふふ♡自分の身体に見惚れてるの?♡」

「こんな可愛いんだもんね♡わかるよ♡」

「私もまた君を食べちゃいたいもん♡」



「いい事…教えてあげる♡」

「いい事…?」

何だろう…

「うん♡」

「実はね…サキュバスの身体って全身が性感帯で特に…」



「ひゃっ！」

「尻尾は格別に感じやすいんだよ♡」

「なななんだ!？」

「ん♡可愛い♡」

「こない反応されちゃうと…いじめたくなっちゃう♡」



「じゅっ♡♡んね…♡♡」

尻尾を舐められてるのか？

「はぁ♡はぁ♡」

こんな感覚味わった事ないぞ…気持ちいい…

「感じてるんだね♡可愛いよ♡」

「もっとペロペロしてあげる♡」



「顔すごく赤いよ♡」

「そ、それは…はあ…んっ♡」

「君の尻尾…美味しい♡」

下半身が熱くなっ…

力が抜けていく…



「サキュバス同士のS●X…教えてあげようか♡」

「はぁ♡はぁ♡サキュバス同士…?」

「そう♡サキュバス同士が愛し合うの♡」





「人間の時以上の快樂が味わえるよ♡」

人間の時以上…!!

「ふふ♡興奮してきたでしょ?♡」

「例えばこんな風に尻尾を絡ませたりして…んっ♡」

「ぞわぞわって…くすぐったいけど気持ちいい…」

「尻尾ってこんなに気持ちいいの?♡」

「サキュバスのかかなり敏感な性感帯だからね♡」

「ほら尻尾だけじゃなくて乳首もお♡」

「んっ♡」

「ああ可愛いよ♡」





「ゴリゴリ♡乳首も気持ちいいぞ♡」

「ほ、はあい♡」

「ふふ♡私も気持ちいいよ♡」

「これからもっと2人で気持ちよくなるからね♡」



「首筋を舐めたり…♡」

「んっ♡はあ♡」

「尻尾も…クイ♡クイ♡」

「あっ♡んっ♡」

「んんんが……♡」

「ま●この筋をなぞって……♡」

「んんっ♡」

「濡れてるね♡」



「こんな風に・・・尻尾の先で♡」

「はぁ♡君の綺麗なま●この中・・・見えちゃったね♡」

「ぐちよぐちよになった・・・君のま●こ」

「恥ずかしい・・・けど、何だか嬉しい♡」



「このぐちよぐちよま●こに私の尻尾を…んっ♡」

「ひっ…んっ♡」

入ってきてる…

こんな感覚なんだ…



「尻尾で中をかき回して♡」

「はぁ♡気持ちいいでしょう？♡はぁ♡」

「はぁい♡気持ちいいでしゅ♡」

「もっと。。。もっと感じて♡」

「私も気持ちいいから♡」



「ああ♡イキそうでしゅ♡」

「ううよ♡いっ♡」

「あああ！イクっ♡」



「はぁ♡はぁ♡」

「サキユバスの身体でいつちやったね♡」

「はぁい♡」

「でもまだイケるよね♡」

「はぁひい♡」

「俺も尻尾入れてみたいです♡」

「ふふ♡いいよ♡入れて♡」





「じゃあ、入れますね♡」

「うん♡っん♡あん♡」



ああ気持ちいい...ふねな●より気持ちいい...
「2人で繋がったね♡」



「ほら♡尻尾動かしてみて♡」

「うん♡」

「あん♡ん♡そう♡」

「気持ちいい♡」

「上手だよ♡もっと、動かして♡」



「どっどん濡れてきてる♡」

「ヌルヌルで気持ちいいでしょ♡」

「すごく絡みつく…」

「いやらしい音が聞こえるね♡」

「んふふ♡どんどん早くなつてきてるよ♡んっ♡」

「き…気持ちよすぎて…勝手に…」

「いいんだよ♡思うがままにして♡」

「なんだか…イキそうなの♡♡」

「んっ♡あん♡わ、私もイキそうだから…」

「一緒にイ♡んっ♡」





「い、イクっ♡」

「んんあっ♡」

なんだこれええええ!?

ぎもぢいいいい♡

「はぁ♡はぁ…♡」

サキュバスの身体ってすごいかも…

まさか、自分がサキュバスになるなんて…

「ふふ♡サキュバスの身体っていいでしょ？♡」

「うん♡」

「まだまだイケるよね?」♡

「うん♡全然大丈夫♡」

この有り余る体力すごい...

これでずっとエッチ出来る...かな?



「ねえ♡舌っつんと♡」

「んんあ♡」



「んっ♡」

ディープリキス。。。気持ちいい。。。♡

いやらしい首を立てながら。。。舌を絡めあって。。。♡



もっと愛し合いたい♡

「もっと♡」

「んふふ♡らふ♡」

こうしてサキュバスとして生きて行くことだ...





読んでくださり、ありがとうございます！
次のページからは、おまけページです！

まくら







































































